

トラック輸送情報（平成14年 9月分）

平成14年12月13日

国土交通省総合政策局情報管理部交通調査統計課

担当：金子、荒木 内線28-315

直通 03-5253-8342

ホームページ <http://www.mlit.go.jp/>

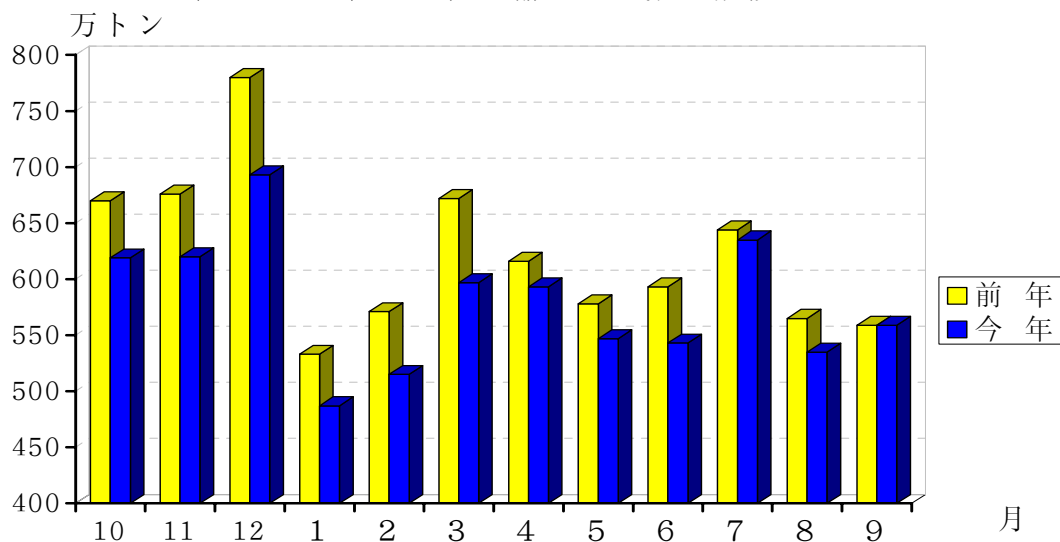
1. 特別積合せ貨物

(1) 本月の輸送状況

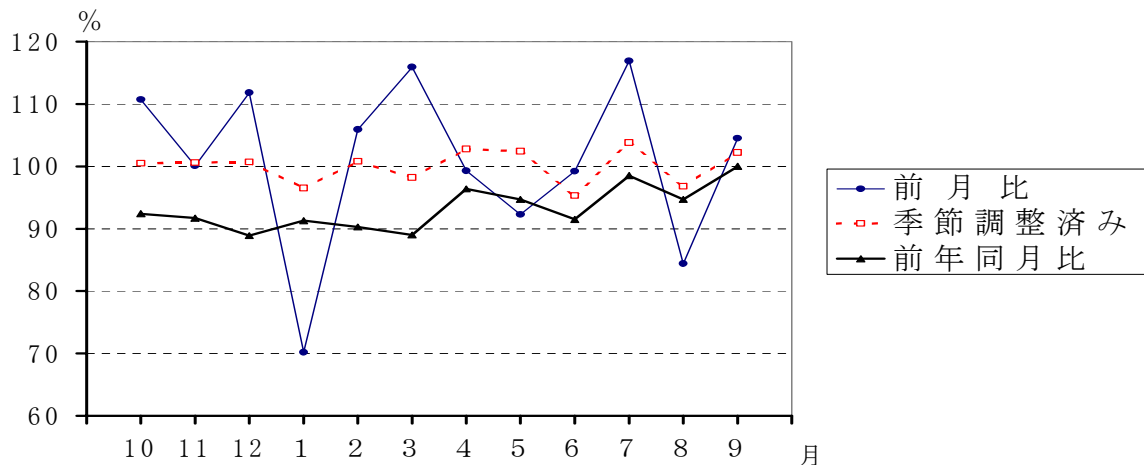
調査対象26社の本月の輸送量は5,593,060トンで、前年同月比100.0%、前月比104.5%（季節調整済み102.2%）の実績であった。（図1-1、図1-2参照）

なお、平均稼働日数は、22.9日、稼働1日当たりの輸送量は244,238トンで、前年同月比96.1%、前月比105.8%となった。

（図1-1）26社の輸送トン数の推移



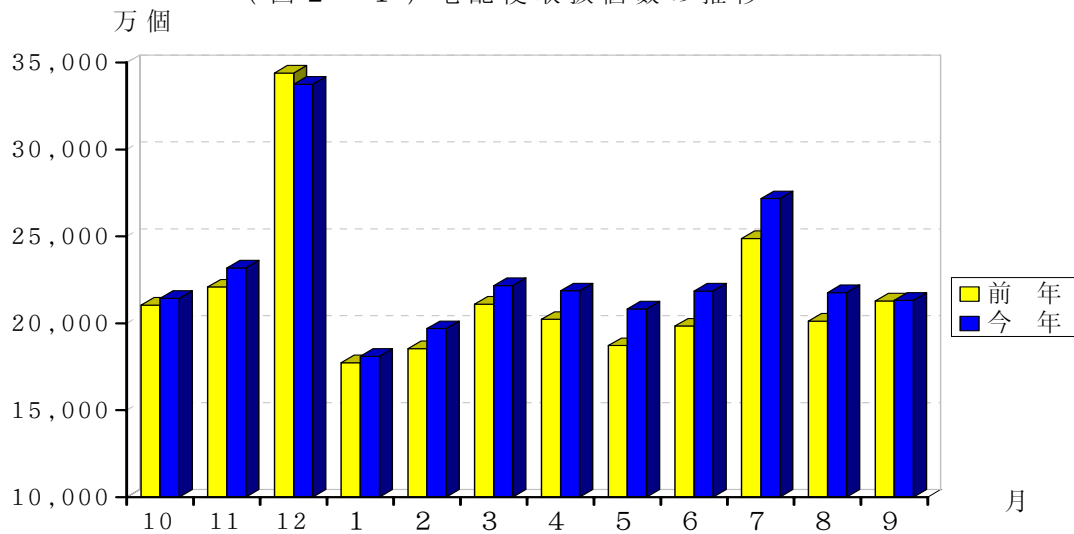
（図1-2）前月比・前月比（季節調整済み）・前年同月比



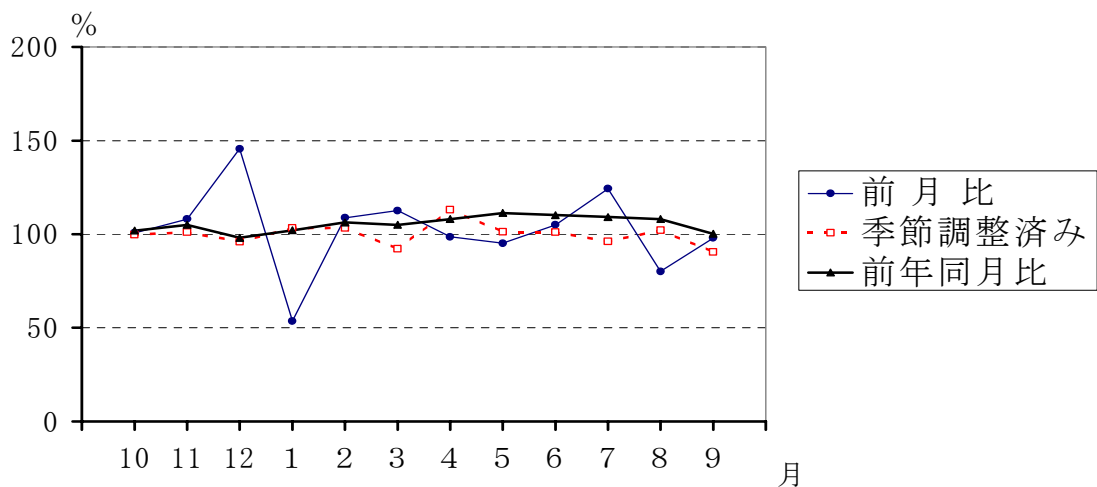
(2) 宅配便の輸送状況

調査対象20社の本月の宅配便貨物の取り扱い1個数は213,297千個であり、前年同月比100.2%、前月比98.0%（季節調整済み90.5%）であった。（図2-1、図2-2参照）

（図2-1）宅配便取扱個数の推移



（図2-2）前月比・前月比（季節調整済み）・前年同月比



(3) 本月の輸送動向

本月の輸送は、前月と比べ、平均稼働日数は0.3日減少し、稼働1日当たりの輸送量は約1.3万ト増加したため、前月比105.8%の実績となった。総輸送量について先月と比べ約24万ト増加したため、前月比104.5%の実績となった。宅配便についても約4360万個減少したため、前月比98.0%の実績となった。

前年同月と比べると、平均稼働日数は0.9日増加し、稼働1日当たりの輸送量は約1.0万ト減少したため、前年同月比96.1%の実績となった。総輸送量について、約0.1万ト増加したため、前年同月比100.0%の実績となった。宅配便については、約46万個増加したため、前年同月比100.2%の実績となった。

(4) 品目別及び地域別輸送状況

本月の輸送は、前月と比べ、中間決算期を迎え、全ての品目において増加傾向にあった。中でも、機械が関東において、工場・生産地からの貨物増を主な理由として増加している。

前年同月と比べると、顕著な増減傾向は見られなかった。しかし、わずかながら、機械が関東において、工場・生産地からの貨物増、景気回復を主な理由として増加している。

(表1) 品目別増減状況(回答事業者数 26社)

品目	増減事業者数				主な増減品目 (上段が増加・下段が減少)	主な増減地域	※ 増減要因
	著 増	増	変 らず	減 減			
前 月 に 比 べ て	農水産品	4	10	3	農産物、魚介類	九州	4, 8
					青果物	東北、四国	4
	金属製品	6	13	1	建築用金属製品、工具類	関東、北陸信越、近畿	4, 8
	機械	2	7	11	電気機械、機械部品	関東	4
					家電製品	関東	4, 5, 7, 9
	化学工業品	8	13	1	窯業製品、合成樹脂	関東、北陸信越	4
	繊維工業品	9	12	1	織物、糸	関東	4
	食料工業品	8	7	6	製造食品、飲料	関東、北陸信越	4, 5, 7
					加工食品	関東、近畿	4
日用品	13	7	1	一般貨物、身廻品、印刷物	全国	4	
					関東	7	
その他	6	12	3	宅配貨物	関東	4, 8	
					全国	2	
前 年 同 月 に 比 べ て	農水産品	1	3	11	農産物、魚介類	東北	4
					青果物	東北、関東、北陸信越	4
	金属製品	2	15	3		関東、北陸信越、近畿	9
						近畿	4
	機械	1	4	14	電気機械、機械部品	関東	4, 9
					家電製品、電子部品	関東	4
	化学工業品	6	13	3	窯業製品、塗料	北陸信越、近畿	4
					化学薬品、合成樹脂	関東	4
	繊維工業品	1	16	5		近畿	9
						関東	4
食料工業品	9	10	1	加工食品、飲料	関東	4	
日用品	7	7	6	一般貨物、印刷物	近畿、四国	4, 5, 7	
				身廻品	全国	9	
その他	5	12	4	宅配貨物	全国	2, 4, 5	
					関東	9	

(注) 「主な増減地域」については、16地域[全国、6大都市圏(東京、神奈川、愛知、大阪、兵庫、福岡)及び地方運輸局(6大都市圏を含む場合はそれらをのぞく府県)]単位である。

※ 増 減 要 因	1. 新規荷主獲得(荷主契約解除)	6. 倉庫へ入る貨物増(減)
	2. デパート、スーパーの貨物増(減)	7. 倉庫から出る貨物増(減)
	3. 他機関から貨物が来た(へ流れた)	8. 季節的需要増(減)
	4. 工場・生産地からの貨物増(減)	9. 景気の好況(不況)
	5. 商社・問屋からの貨物増(減)	10. その他

2. 一般貨物

(1) 本月の輸送状況

全国の一般貨物トラック事業者（本月の回答事業者数 878社 / 調査対象事業者数 1,110社）の輸送量は、前年同月比 97.3%、前月比102.2%であった。

(表2) 地方運輸局別 前年同月比・前月比

	全 国	北海道	東 北	関 東	北陸信越	中 部	近 畿	中 国	四 国	九 州	沖 縄
前年同月比	97.3%	101.8%	98.1%	98.0%	98.7%	96.6%	103.7%	102.2%	101.2%	83.0%	119.9%
前 月 比	102.2%	109.6%	106.2%	102.0%	108.3%	99.8%	107.4%	102.8%	104.1%	86.9%	99.2%

(2) 地方運輸局別管内輸送状況（各運輸局より回答のあったもの）

北海道	<p>本月の輸送は、農産物の収穫期にはいり、また、水産物の水揚げも一部の地域で好調だったことから、対前月比109.6%であった。しかし、公共工事が発注に頭打ち感があり、また住宅建設も低調に推移したこともあって対前年同月比101.8%であった。今後の輸送見通しは、次月以降精糖用ビート(てんさい)輸送が本格的に始まるため、輸送量は増加するものと予想される。</p>
東北	<p>本月の輸送は、前月に対し稼働日数の増加により実働率が上がり輸送量が増加した。輸送品目では季節柄、農産品、またそれを梱包するための「紙・パルプ(段ボール)」の輸送が増加したことから対前月比は106.2%となった。なお、対前年同月比は98.1%と依然として厳しい状況である。今後の輸送見通しは、次月及び以降とも上昇傾向にある。</p>
関東	<p>本月の輸送は、夏休み明けによる「日用品」の輸送減が見られたが、来年度出荷分の「土」の倉庫入れがあったこともあり、対前月比102.0%と増加した。しかし、対前年同月比は98.0%と依然として伸び悩んでいる。今後の輸送見通しは、次月及び以降とも減少傾向にある。</p>
北陸信越	<p>本月の輸送は、前月に対し稼働日数が増加したこと、荷主等の中間決算期にあたり売上げ確保のための出荷が増加したこと、穀物等農産物の収穫期及び揮発油の冬期に向けての輸送需要の増加など季節的変動もあり、対前月比108.3%と増加した。一方、工事関係資材は相変わらず低迷しており、辺路荷主の輸送量の減少、出荷場所の変更や受注システムが入札制に変更された等荷主又は納入先ユーザーの都合により輸送量が減少したこともあり、対前年同月比は98.7%と低迷している。今後の輸送見通しは、次月及び以降とも横ばい傾向にある。</p>
中部	<p>本月の輸送は、荷主の夏期休暇や長期化等による影響のあった前月より輸送量が減少した県もあり、対前月比99.8%、対前年同月比96.6%と下回っている。 今後の輸送見通しは同等傾向となっており、厳しい状況に変わりがないと思われる。</p>
近畿	<p>本月の輸送は、お盆時期による輸送量の低下が見られた先月と比べ、中間決算期等による「食料工業品」「日用品」等の出荷増があったことから、対前月比107.4%となった。また対前年同月比でも103.7%と増加したが、厳しい状況には変わらない。 今後の輸送見通しは本月同様の水準でしばらく続くものと思われる。</p>
中国	<p>本月の輸送は、収穫時期を迎え、山陰地方を中心に農作物の輸送が増加した。また、自動車の製造販売に関連した輸送増加もあり、対前月比102.8%となった。また、地域によって9月が8月並みの気候が続いたため、建設関係の需要の落ち込みが少なく、このため対前年同月比では102.2%となった。今後の輸送見通しは、次月及び以降とも減少傾向にある。</p>
四国	<p>本月の輸送は、中間決算期による出荷増が見られたこと、また、夏の高知国体の開催に伴う輸送があったことから、対前月比104.1%と増加した。また対前年同月比も101.2%とわずかであるが増加している。今後の輸送見通しはみかん等の農産物の収穫が始まるため次月及び以降ともわずかであるが上昇傾向にある。</p>
九州	<p>本月の輸送は、突発的な公共事業及び建設関係で「砂利・砂・石材」「セメント」の輸送量が大幅に伸びた事業者もあったが、全体的には設備投資が減少しており、また、消費の落ち込みも依然としてみられることから対前月比86.9%と減少している。対前年同月比も83.0%と大幅に減少した。今後の輸送見通しは次月及び以降とも減少傾向が続くものと思われる。</p>
沖縄	<p>本月の輸送は、学校が2学期を迎え、学校給食の輸送需要が増加し、また、建築資材用の金属製品及び米軍物資の輸送依頼も増加した。その一方、季節的要因により、引越荷物等の取り合わせ品や野菜・果物の輸送が減少し、食料工業品、その他化学工業品及びダンボール等の紙・パルプの輸送依頼が減少した。このため対前月比で99.2%と減少したが、対前年同月比では119.9%との増加となった。今後の輸送見通しは次月及び以降とも上昇傾向にある。</p>

(3) 運輸局別、品目別増減状況(対前月比)

回答のあった事業者数をとりとまとめた。各欄のうち上段は増加、下段は減少件数である。

品 目		運 輸 局		北	東	関	北	中	近	中	四	九	沖	全
		道	北	東	陸	部	畿	国	国	州	縄	計		
1. 穀 物	増	0	6	1	4	0	0	4	0	1	0	16		
	減	0	1	0	1	0	0	0	1	2	0	5		
2. 野 菜 ・ 果 物	増	6	6	4	2	0	1	1	1	5	0	26		
	減	1	1	4	2	0	0	0	0	2	1	11		
3. そ の 他 の 農 産 品	増	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2		
	減	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	2		
4. 畜 産 品	増	2	0	0	0	1	0	0	0	0	0	3		
	減	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	2		
5. 水 産 品	増	6	2	1	0	0	1	0	0	1	0	11		
	減	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1		
6. 木 材	増	6	2	1	0	1	0	1	0	3	0	14		
	減	3	1	0	1	0	1	0	1	3	0	10		
7. 薪 炭	増	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
	減	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
8. 石 炭	増	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
	減	0	0	0	1	0	0	1	0	1	0	3		
9. 金 属 鉱 物	増	0	1	0	0	0	0	0	0	3	0	4		
	減	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1		
10. 砂 利 ・ 砂 ・ 石 材	増	10	2	0	4	0	0	1	2	4	0	23		
	減	4	1	0	0	1	0	1	0	1	0	8		
11. 工 業 用 非 金 属 鉱 物	増	2	2	1	0	0	0	0	0	3	0	8		
	減	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	2		
12. 鉄 鋼	増	0	1	0	1	0	1	2	0	1	0	6		
	減	2	2	0	0	0	2	0	1	1	0	8		
13. 非 鉄 金 属	増	0	1	0	2	0	0	0	0	1	0	4		
	減	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	2		
14. 金 属 製 品	増	1	2	1	5	1	1	0	0	2	1	14		
	減	0	2	1	0	1	0	1	0	2	0	7		
15. 機 械	増	1	1	3	0	3	2	1	0	1	0	12		
	減	0	0	1	1	1	1	1	0	0	0	5		
16. セ メ ン ト	増	2	3	0	1	0	1	1	0	4	0	12		
	減	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	2		
17. そ の 他 の 窯 業 品	増	2	0	1	1	1	0	0	0	3	0	8		
	減	1	0	0	0	0	1	0	0	1	0	3		

